

とちぎの赤十字

第2号

2024 夏

日本赤十字社栃木県支部だより

令和6年能登半島地震災害救護活動報告



特集

初動救護班の活動記録…………… P 2～3

石川県珠洲市での活動を終えて…………… P 4～5

非常用持ち出し品の準備・活動資金と義援金の違いとは・編集後記… P 6



自衛隊車両で移動



石川県支部でのブリーフィング

[特集]

令和6年1月1日(月)16時10分 石川県能登地方を震源に震度7の地震が発生

初動救護班の活動記録

日本赤十字社
栃木県支部の
災害救護活動



1月7日(日) [移動日]

- 09:00 日赤栃木県支部出発
- 10:45 芳賀日赤出発
- 20:00 富山県高岡市のホテル到着

1月8日(月) [移動日]

- 07:30 富山県高岡市のホテル出発
- 11:00 金沢駅出発(医師・看護師・薬剤師合流)
- 11:20 災害対策本部会議(金沢市 日赤石川県支部)
- 16:20 旅館到着(七尾市 料理旅館七尾城)

1月9日(火) [1日目]

- 07:50 旅館出発(七尾市 料理旅館七尾城)
※道路の損壊や土砂崩れにより移動に長時間を要した
- 12:20 珠洲市現地対策本部にて会議
珠洲市市民ふれあいの里健康増進センター
- 13:50 医療救護活動(巡回診療)
旧上黒丸小学校・上山神社
- 16:30 活動終了
- 18:00 珠洲市現地対策本部にて情報整理
珠洲市市民ふれあいの里健康増進センター
- 21:00 テント着(りふれっしゅ村鉢が崎)

1月10日(水) [2日目]

- 06:50 テント発(りふれっしゅ村鉢が崎)
- 08:00 珠洲市現地対策本部にて会議
珠洲市市民ふれあいの里健康増進センター
- 09:30 医療救護活動(巡回診療)
上戸小学校・旧上戸保育所
すず市民交流センター
- 15:30 活動終了
- 17:00 珠洲市現地対策本部にて全体会議
珠洲市市民ふれあいの里健康増進センター
- 18:20 テント着(りふれっしゅ村鉢が崎)

1月11日(木) [3日目]

- 07:15 テント発(りふれっしゅ村鉢が崎)
- 08:00 珠洲市現地対策本部にて会議
珠洲市市民ふれあいの里健康増進センター
- 08:50 医療救護活動(巡回診療)
上戸小学校・旧上戸保育所
- 10:45 活動終了
- 11:00 珠洲市現地対策本部にて報告
珠洲市市民ふれあいの里健康増進センター
- 11:35 テント着(りふれっしゅ村鉢が崎)
- 12:50 テント発
※道路の損壊や土砂崩れにより移動に長時間を要した
- 18:00 旅館着(七尾市 料理旅館七尾城)

1月12日(金) [移動日]

- 08:30 旅館出発(七尾市 料理旅館七尾城)
- 10:10 災害対策本部会議(金沢市 日赤石川県支部)
- 12:10 金沢駅(医師・看護師・薬剤師は鉄道で帰県)
- 19:10 日赤栃木県支部到着



活動1日目 旧上黒丸小学校・上山神社

[1月9日]

救護班は昼ごろに珠州市現地対策本部に到着し、避難所で避難所アセスメント（生活状況調査）及び被災者の安否確認を行うことになった。旧上黒丸小学校は、まだどの救護班も訪問していない避難所であったため、救護班員の安全を考慮し、自衛隊車両で現地に向かうことになった。避難所には50名以上の避難者がいたが、現場責任者によると、避難者は1カ所の避難所だけではなく、別の避難所（上山神社）もあり、そこにも避難者が数名いるとのことだった。そのため、医師、看護師、主事などを2班に分けて巡回診療を行うことにした。水道が断水し、下水道が被災したため、トイレなどの生活環境には不安があったが、最低限の衛生環境は保たれていた。また、幸いなことに安否不明者や重症被災者がいない避難所だった。



避難所のようす



現地対策本部での会議のようす



避難所のようす

活動2日目 上戸小学校・旧上戸保育所 すず市民交流センター

[1月10日]

2日目は、巡回診療のため、上戸小学校、旧上戸保育所及びすず市民交流センターに巡回診療に向かった。上戸小学校には多くの避難者がおり、現場責任者の指示のもと、各担当者が避難所を運営していた。自衛隊が同じ敷地内にもいることもあり、炊き出しやお風呂の提供などが行われていた。次に、旧上戸保育所では、避難者は多くなかったが、中には早急に治療が必要な人がいたり、支援物資等も不足している状況で避難所を運営していた。すず市民交流センターでは責任者がいないため、状況の把握に時間がかかった。3カ所の避難所とも、各々が協力し合い行動していることもあり、最低限の衛生状態は保たれていた。

活動3日目 上戸小学校・旧上戸保育所

[1月11日]

3日目は、前日と同じく上戸小学校及び旧上戸保育所に向かった。どちらの避難所も前日と比べほぼ変化は無かったが、家族の迎えなどで避難所から別の場所へ避難した方も何人かいる状態だった。携帯がつながりにくく、家族と連絡が取れていない方もいた。支援物資も十分に届いていない状況であり、また、どちらの施設も情報通信機器の支給を心待ちにしている状態だった。旧上戸保育所については、前日に引き続きギリギリの状況で運営しており、担当者から避難所を閉鎖したいという要望も出ていた。各避難所付近の道路状況は、車が通れる状態だったものの、細心の注意を払って運転する必要があった。



巡回診療のようす

石川県珠洲市での活動を終えて

[班員構成] 医師2名、看護師3名、薬剤師1名、主事4名 計10名



河又 典文 医師

私たちは、栃木県赤十字救護班一巡目出動を拝命し、初災5日目の珠洲市で救護活動を行いました。今回の被災地の特徴は、沿岸部の津波災害と、地方都市の老朽化した木造家屋や都市インフラの倒壊、加えて限界集落に点々と孤立する高齢者中心のおびただしい数の小規模避難所の出現といった、今後少子高齢化がさらに進んだ数十年先の我が国を先んじて襲ったような、まさに未来日本の縮図のような災害現場でした。

今回の救護活動を通して、日本の災害救護は急速に変化する新たな社会情勢に対応するための新たなフェーズに入ったような印象を抱きました。この活動から得られた様々な経験は、今後の我が国の防災政策に多くの新たな知見をもたらしたことは間違いないと考えます。

最後に、活動に際して多くのサポートをいただきました関連各所の皆様に改めて感謝いたします。



山口 光崇 医師

研修医の立場から災害医療を経験して実感したことが大きく2つあった。

1つ目は、医療者は広い視野も持つ必要があることである。避難所に行くと、そこで生活している人たちが私たち医療者を信頼し、診察に来るのを待ち望んでいる方がたくさんいた。医療者として、自分の健康はもちろんのこと、周りの健康にも配慮する必要があることを実感した。

2つ目は、今病院で働く環境に医療資源がたくさんあることである。診療をする際は、病歴聴取、身体診察、血液検査、画像検査など諸々の検査を踏まえて病気の診断・治療をしている。しかし、避難所などで診察する際には自分が思うような検査、処方ができず、いかに自分が病歴聴取、身体診察を蔑ろにしていたかを実感するとともに、災害医療の難しさを感じた。

院内では経験できない医療を知ることができ、貴重な1週間であった。被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



長谷部 明子 看護師長

私たち救護班員10名は、石川県珠洲市で1月9日からの活動と決まった。私は、看護師長として、救護班員が無事活動を遂行でき、自分たちの健康を損なわないよう、健康管理と活動状況の把握、その時できる活動と支援が途切れないよう活動をつないでいくことを意識した。

混乱している現場では、信頼している班員とコミュニケーションを十分にとり、救護全体の他組織との情報共有と協働、日赤災害コーディネーター、救護班長とのCSCATTT（の意識の共有）が重要である。私は、自分たち日赤救護班の役割を見失わないようリフレクションし、支援の情報共有ができた。

救護活動では、微力だが被災者に「寄り添う」ことができたと思う。自分の活力に必要なものを持参したように、被災者にと折り紙を用意したが、朝宿泊テントを出発すると夕方まで戻ることがないため、個人装備バックに入れ忘れて幼児に渡せなかった悔いが残る。

帰還中電柱工事を見かけ、1日も早いライフラインの復旧、活力ある地域への復興を願う。



藤井 祥子 薬剤師

私は、救護班の薬剤師として、情報収集の難しさと大切さを感じました。先行班へ連絡をとったり、TVなどから情報収集しましたが、情報が得られず、被災地を想像して薬を準備し、出発しました。

珠洲市現地対策本部に着いても、地元病院や現地薬剤師会の状況も分からぬまま派遣先が決定しました。出発までのわずかな時間で再度、地元薬剤師会の状況を確認したり、前任救護班の薬剤師から情報収集して避難所へ行きました。

しかし、翌日にはこれらの情報は大きく変わっていました。

現場での情報は刻一刻と変化していくため、自身で考え、情報収集し、想像し、臨機応変に動くことが本当に大切だとわかりました。

また、分からないことだらけの中、班員の皆さんには多くの面で助けられました。そして、経験の有無や職種にかかわらず、たくさんの人の助言や助力に本当に助けられました。班員、職員の皆様本当に感謝しています。今回、とてもよい経験ができたと思います。



小貫 美紀 看護師

(右から3番目:小貫看護師)

私たちは、芳賀赤十字病院救護班として、1月9日から11日まで石川県珠洲市で救護活動を行ってきました。発災後約1週間での活動のため、現地の情報も少なく、不安もありました。

現地では、看護師として避難所で生活されている方々の健康状態を観察し、お話を伺いました。被災者でありながら、自分たちは被害が少ないから支援する側に、という方が多く、協力し合う共助の高さに感銘を受けました。お部屋に何うと、「来てくれてよかった、ありがとう」と言われ、時間の許す限りお話を伺い、少しでも被災者の方に寄り添うところのケアができたらと思い、救護活動にあたりました。別の避難所では、低温火傷をされた被災者の方がおり、医師と共に応急手当を行い、看護師としての知識と技術を活かすことができ、心配されていたご家族の力になれたと思いました。

この貴重な経験は赤十字職員として誇りであり、今後の看護に活かしていきたいと思っています。



森戸 洋介 主事

(1番右:森戸主事)

石川県災害救援活動では、被災者の健康を少しでも守れるような協力と行動が求められました。救援班のそれぞれの連携、迅速な行動により、被災者に少しでも医療を提供できたことは貴重な経験となりました。

災害現場は非常に困難な状況でしたが、第二班のメンバーと協力し乗り越えられた経験を日々の業務に活かしていけるように今後も努力していきたいと思っています。



経路確認



石川県支部でのブリーフィング



いざという時のために
備えておきましょう!

非常持ち出し品の準備

便利品など

懐中電灯
笛やブザー
音を出して居場所
を知らせるもの

防災ずきん
またはヘルメット
予備の電池
マスク
手袋
手袋
手袋
ビニール袋

カイド
携帯カイロ
万能ナイフ
アルミ製
保護シート
毛布
雨具
スリッパ
レイン
コート
マッチか
ライター

食料など

飲料水
非常食

清潔・健康のためのもの

救急セット
ティッシュ
ペーパー
トイレット
ペーパー
常備薬
歯ブラシ
着替え
タオル
下着

個々の実情に応じて必要となるもの

紙おむつ(幼児用・
高齢者用など)
生理用品
予備の眼鏡、
杖など、普段の
生活に欠かせ
ないもの

貴重品

※現物を持ちだせなかった場合に備えて、
必要に応じてコピーを入れておく

身分証明書
健康保険証
マイナンバー
カード
現金
お薬手帳
母子手帳
印鑑
銀行の口座番号・
生命保険契約
番号など

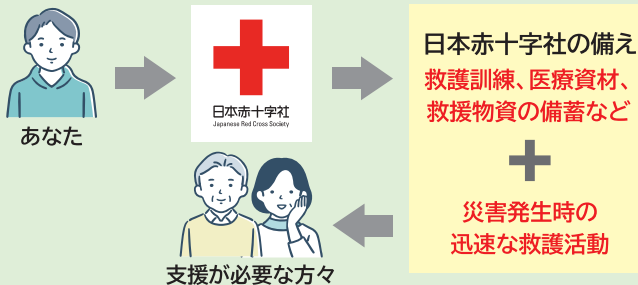
情報収集用品

非常用携帯
電話充電器
筆記用具
予備の電池
携帯ラジオ
携帯電話
小銭
(公衆電話用に
10円玉・100円玉)
家族の写真
(はぐれた時の
確認用)

「救いたい」をカタチにする。ニーズに合った支援を届けるために 赤十字活動資金と義援金 何が違うの？

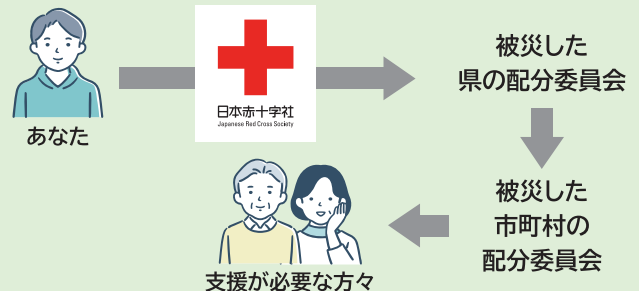
赤十字活動資金とは

日本赤十字社の様々な活動に使われます。



義援金とは

ご寄付の全額を被災された皆さまにお届けします。



編集後記

暑中見舞い申し上げます。暑さ厳しい折、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今号の「能登半島地震医療救護活動」特集、いかがだったでしょうか。

私自身もこの救護班に帯同し、芳賀赤十字病院救護班とともに石川県珠洲市で活動していました。一班員として感想を記載したいと思いましたが、救護班員からの熱い思いに圧倒されスペースがなくなってしまったため割愛させていただきました。

我々救護班員が被災地で支援できたことも皆さまからの「赤十字活動資金」があつてのことです。昨今頻発する災害に備えるためにも、日本赤十字社栃木県支部へのご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

また、広報誌作成にあたり今回ご協力いただきました芳賀赤十字病院救護班員及び関係者の方々にはこの場を借りてお礼を申し上げます。

最後になりましたが、このたびの能登半島地震の影響で、被害を受けられた地域の方々、そのご家族に、心からお見舞い申し上げます。そして、一日でも早い復旧・復興をお祈りいたします。

発行日：令和6年7月10日

